

Contents

- 02 目次
プロローグ Vol. 20
- 04 特集 水質改善
より安全に、よりきれいに
- 06 数字から見る汚水処理
- 08 ジャカルタの街づくりから取り組む下水道整備事業
いよいよ本格的にスタート！ インドネシア
- 11 適切な下水道管理を学ぶ
- 12 自治体と企業がサポート！
都市整備の経験を汚水処理に生かす フィリピン
- 16 相互に深まる信頼とともに
上水から下水へと広がる協力の形 カンボジア
- 18 ここからが本番
浄化槽を生かす要は“メンテナンス” インドネシア
- 20 技術力に高まる期待
ロボットが変える下水管の維持管理 マレーシア
- 21 新たな技術が貢献
トイレ環境の改善が人々の暮らしを救う ケニア
- column
- 22 ベトナムに浸透する日本の下水道技術 ベトナム
- 23 衛生環境の改善と安全な水が疾患を防ぐ

- 24 JICA海外協力隊がゆく Vol. 19
エチオピア
- 26 世界につながる教室⑩
“自分ごと”として難民を考える
- 28 地球ギャラリー Vol. 141 ウガンダ共和国
写真・文●桜木 奈央子 フォトグラファー
12年越しの結婚式
- 34 教えて！ 外務省
知っておきたい国際協力⑫
- 36 JICAカレンダー
- 38 読者の声、プレゼントほか
- 39 JICA PRESS
- 40 わたしが見つけたSDGs Vol.21

*掲載されている情報等は取材当時のものです。



信頼で世界をつなぐ
Leading the world with trust



私たちが使った水は、地球の循環を経てふたたび私たちに戻ってくる——生活排水をはじめとする汚水を安全できれいに処理する取り組みが、JICAの協力のもと途上国で進められている。

プロローグ Vol. 20

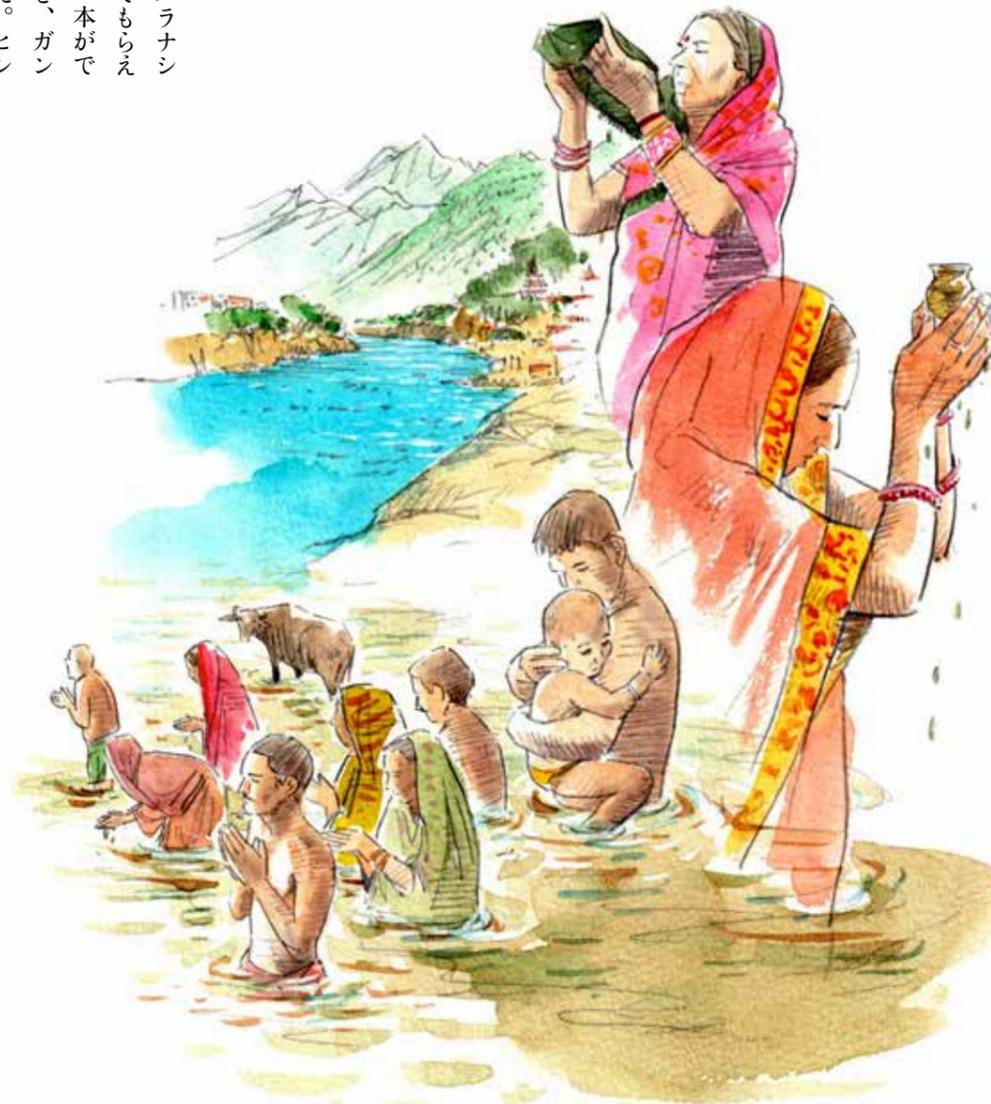
川をゆく

文●真珠 まりこ

3年前の春、私はガンジス川のほとりの街、バラナシで、インドの子どもたちに親しみを抱いて読んでもらえ、「もったいないばあさん」シリーズの新しい本がでないかと考えていた。河岸を歩いて見ていると、ガンジス川で沐浴をし、捧げ物をして祈る人々がいた。ヒンドゥー教の聖地のバラナシでは毎夜お祈りの儀式が行われ、遠くからたくさんの人たちが集まってくる。インドでは、赤ちゃんが生まれると、聖なるガンジスの水をトゥルシーの葉っぱから赤ちゃんの口に垂らして祝福し、亡くなった後は遺灰をガンジス川に流すそうさ。ガンジス川は、「マザーガンガー」と呼ばれる神様。人々の心の拠り所でもある。その一方で、人々はここで洗濯もする。体も洗う。ウンチやおしっこも流れてくる。工場の排水による汚染が問題にもなっていた。時には遺体がそのまま流れてくることもある。死んだ牛も。インドの人たちにとって、ガンジス川は神様であり、崇める対象であり、同時に洗濯もし、ごみや汚物が流れてくる場所でもある。いったいなぜそれらが同時に起きるのか。神様なのに汚れているの？ と、私は混乱していた。

そのとき、源流で川の始まりの水を汲んで、海に注ぐ川の終わりで歩いて旅をする巡礼の話聞いた。行ってみたい！ そんなことができれば、インドのこと、ガンジス川のことをもっとわかるのではないか。ガンジス川を上から下まで下る旅は、そうやって始まった。

ガンジス川の名が始まる地点から、海に注ぐ河口の島まで、一本の川に沿って進む旅。上流で澄んでいた水は、人と家が多くなるにつれて濁り、ごみが増えていく。下流では対岸が見えないほどの大河になっていた。その旅の間に見えてきたのは、マザーガンガーは神様だから何を流しても清められると思っっている人、川の中にどんな生きものがあるか知らないし、興味がないという人たち



イラスト●中村知史

がいて、それが、流されたごみや汚物がどうなるか気にしない、ということにつながっているのでは……ということだった。

日本では理科や社会の授業で、自分たちが住んでいる地域の自然について学ぶ機会がある。そこにどんな生きものたちが棲んでいて、自分たちとどう関わっているかを知ること、自然に感謝したり、環境を守ろうという気持ちにつながっていくのだと思う。周りの自然について学ぶこと、教育は大切なのだ。

インドから戻った私は、日本の川も、上流から下流まで歩いてみることにした。ここでは、川の周りには人間だけでなく、魚、鳥、虫、木や草や苔や、とにかくいろいろな、膨大な種類の生きものたちが数限りなく生きているということ、実際に見て感じる事ができた。そんな当たり前のことを、歩いて自分の目で見て初めてわかったような気がした。生きものたちはみな、水がないと生きていけない。みんな川の周りで、自然のバランス、生態系をつくって生きているのだ。

川は、地球の大地に血脈のように広がっていて、空と海とつながっている。

インドのガンジス川から始まった川の旅は、水の循環をテーマにした絵本につながり、私は今それを世界中の人たちに読んでもらいたいと思っっている。水のつながりは、命のつながりなのだと思う。

真珠 まりこ(しんじゅ・まりこ)

神戸生まれ。大阪とニューヨークで絵本制作を学ぶ。2004年に講談社より出版された絵本『もったいないばあさん』はキャラクターが人気となり、『毎日新聞』『朝日小学生新聞』『こどもエコくらぶ』ニュースなどで連載されてきた。08年より地球上で起きている問題と私たちとのつながりを伝える『もったいないばあさんのワールドレポート展』を開催し、全国を巡回。環境省地球生きもの応援団メンバー、UNDB-J生物多様性リーダーとなる。19年『もったいないばあさんかわをゆく』(講談社)出版。